

令和3年1月実施

「市民花壇づくり支援花株助成事業※」についてのアンケート結果

(※ 以下「花株助成事業」と表記)

1 はじめに

旭川市では、「豊かな自然と都市が調和するみどりあふれるまちづくり」を目標に取り組みを進めていますが、人口減少や高齢化が進み、財政状況が厳しさを増していくことが見込まれている中で、花株助成事業についてどのように進めていくべきか、よりよい事業構築の参考とするため、アンケートを実施しました。

2 アンケート回収率

花株助成事業の案内を送付している240団体に配布し、143枚を回収しました。(回収率60%)

なお、案内を送付していますが、花株助成事業を実施しない団体もありましたので、花株助成事業によって花壇づくりを実施しているおよそ8割の団体から回答を頂いたことになります。

以降、このとりまとめは、回答者数に対する割合で表記しています。

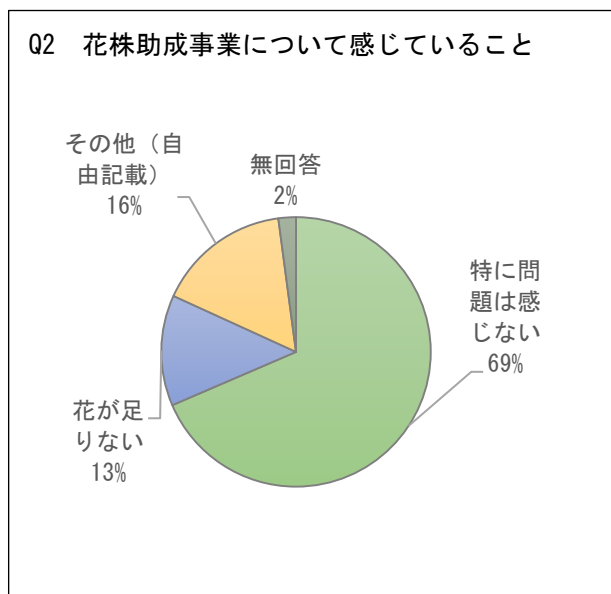
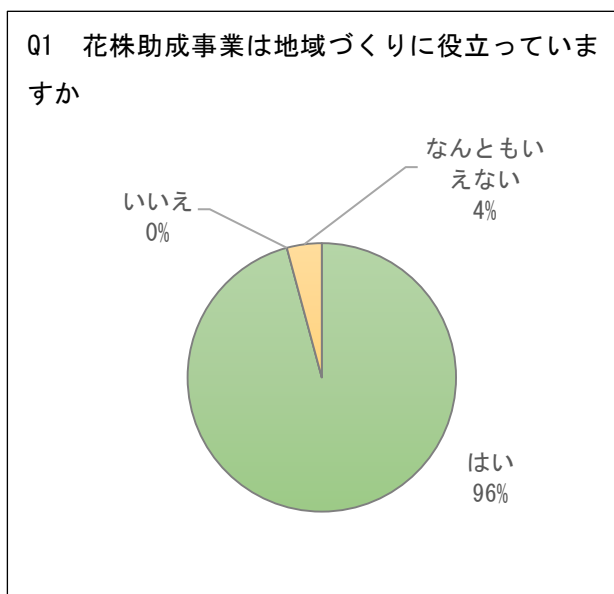
3 アンケート結果について

(1) 花株助成事業について

- | |
|--|
| Q1 花株助成事業は地域づくりに役立っていますか
[はい/いいえ/なんとも言えない] |
| Q2 花株助成事業について感じていることがあれば、記載ください。
[特に問題は感じない/花が足りない/その他(自由記載)] |

96%の団体から「地域づくりに役だっている」との回答がありました。(Q1)

また、「特に問題は感じない」と回答した団体は69%、「花が足りない」と回答した団体は13%です。その他自由記載では「花の種類(宿根草含む)を増やして欲しい」との回答が複数ありました。(Q2)



(2) 町内会等の団体で行う公共用地の花壇づくりについて

Q3	団体の花壇づくりは今後も継続していきたいと思いますか [花壇づくりを継続していきたい (Q4・Q6 へ) / 植えるのをやめていく方向で考えている (Q5・Q6 へ) / わからない(Q6へ)]
Q4	花壇づくりを継続したいという回答の方にお聞きます。どのように継続していきたいですか。 [花株助成制度等を活用し、継続していきたい / 花株助成制度がなくても、できるだけ継続していきたい / その他(自由記載)]
Q5	植えるのをやめていきたいという回答の方にお聞きます。やめたい理由はどのようなことですか。 [人手不足のため / 植付けや草取りなど作業が大変 / 事務管理などが大変 / 必要性を感じない / その他(自由記載)]
Q6	町内会等で行う公共用地(道路・公園等)の花壇づくりについて、感じていることがあればご記載ください。(複数回答) [花や緑を育てることが楽しい / 街がきれいになる活動である / 街に愛着のわく活動である / 地域のコミュニケーションづくりに役立つ活動である / 町内会等での行事となっている活動である / 人手が足りないので困っている / 高齢化が進行しており困っている / 事務管理が大変である / あまり必要性を感じない / その他(自由記載)]

団体の花壇づくりを今後どうしていきたいのか聞いたところ、89%の団体から「花壇づくりを継続していきたい」と回答がありました。一方、「わからない」「植えるのをやめていく方向で考えている」と回答した団体は、合わせて11%ありました。(Q3)

ア 花壇づくりを継続していきたいという団体に対しての質問

どのように継続していきたいか質問したところ、97%の団体が「花株助成事業等を活用し、継続していきたい」と回答がありました。継続していきたい意向はあるが高齢化などで難しいという意見や、街並みの景観保持のためにも必要で、助成がなくてもできるだけ継続していきたいという意見もありました。(Q4)

イ 花壇づくりをやめていく方向で考えているという団体に対しての質問

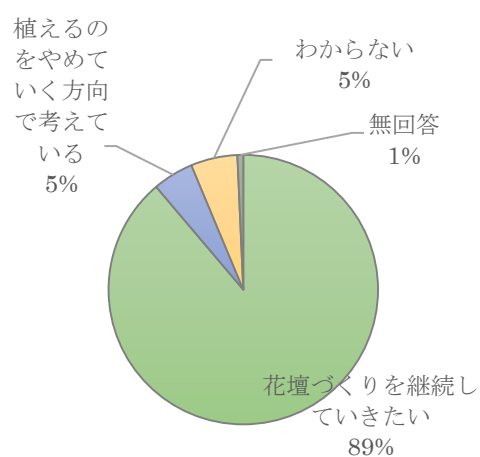
やめていく方向で考えていると回答した団体は5%でした。複数回答で聞いたやめざるを得ない理由として、ほとんどの団体が「人手不足」と「作業が大変」と回答しました。自由記載では、「人手不足のため、作業が一部のみに偏っている」との回答がありました。(Q5)

ウ 公共用地の花壇づくりについて感じていること

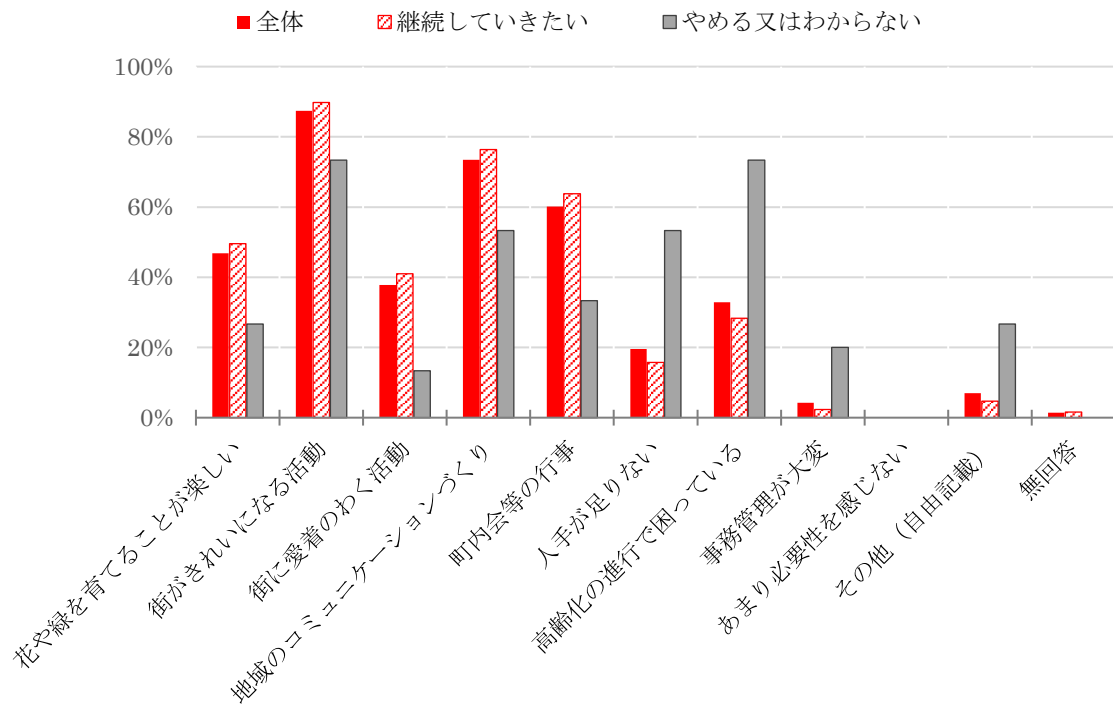
全ての団体について、公共用地の花壇づくりについて感じていることを複数回答で聞いたところ、「街がきれいになる活動である」と回答した団体は87%、「地域のコミュニケーションづくりに役立つ」と回答した団体は73%ありました。一方で、「高齢化が進行しており困っている」と回答した団体は33%ありました。なお「必要性を感じない」と回答した団体はありませんでした。(Q6)

この質問を、(ア)「花壇づくりを継続していきたい」と回答した団体、(イ)「わからない」「植えるのをやめていく方向で考えている」と回答した団体に分けて分析しました。

Q3 団体の花壇づくりは今後も継続していきたいと思いますか



Q6 町内会等で行う公共用地の花壇づくりについて感じていること（複数回答）



（3）町内会等の団体で取組できそうなこと

Q7 団体として取組みができそうなことがあれば、記載ください。

[種子から苗の育成/宿根草の苗の育成/腐葉土の作成/その他(自由記載)]

助成団体で新たに取組できそうだと思うことについて質問しました。

78%の団体が無回答でしたが、「宿根草の苗の育成」13%、「腐葉土の作成」8%、「種子からの苗の育成」1%という回答がありました。(Q7)

4 アンケート結果から見えてきたこと

（1）花株助成事業について

96%の団体が「地域づくりに役だっている」との回答があり、概ね花株助成事業について「特に問題は感じない」との回答でした。毎年予算との兼ね合いから、申請数より 5~15%削減して配布せざるを得ない状況ですが、「花が足りない」という意見は 13%であり、この調整は一定程度理解されていると考えています。なお、細かな要望については、客土、肥料、宿根草の拡充などが複数寄せられました。

（2）町内会等の団体で行う公共用地の花壇づくりについて

申請書の提出と同時にアンケートの回収を行ったので、ほとんどの団体（89%）が継続の意思を示している結果となりました。また、継続の意思の有無に関わらず、多くの団体が、街がきれいになる活動であり、地域のコミュニケーションづくりに役立つと回答しています。

一方で、継続の意思があっても、高齡化の進行に困っているという回答が 28%あり、高齡化の進行により、人手不足となり、一部のみに管理が偏り、花壇づくりをあきらめていくという構造がうかがえ

ます。

継続したいという団体では、「花や緑を育てることが楽しい」「街に愛着のわく活動である」「地域のコミュニケーションづくりに役立つ」という回答が多く、趣味や余暇の楽しみ、やりがいの側面が強いと思われます。また、助成している団体は、町内会や市民委員会が最も多いので「町内会等の行事となっている活動」という回答も多くありました。

高齢化は全国的な問題ですが、花壇づくりへの若年層の取り込みや、趣味や余暇の楽しみ、やりがいの側面を強化する取組も事業の継続に有効だと思われます。

(3) 町内会等の団体で取組できそうなこと

ほとんどの団体が、これ以上の活動はあまり考えられないとする一方で、10%程度の団体では、宿根草の苗の育成や腐葉土の作成など、新たな取り組みも考えられるとの回答がありました。

5 おわりに

花株助成事業に参加の皆様、アンケートへのご協力、並びに市民緑化の推進につきまして、ご協力頂き、誠にありがとうございます。

アンケートのとりまとめからは、この花株助成事業を多くの団体が地域づくりに活用しており、市民協働で行うよりよいまちづくりへの一助となっていることがうかがえる結果となりました。

少子高齢化・人口減少に伴い、旭川市の財政は厳しい状況が続いていますが、一方でふるさと納税による寄附は、ここ数年多く寄せられるようになりました。花株助成事業はふるさと納税による都市緑化への寄附金が活用されており、寄附頂いた方への報告のため事業成果をお知らせできる写真やコメント等があれば、ぜひお寄せください。なお、引き続き、継続性を図るため事業改善にも取り組んでいきますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。